

令和六年度

滝川第二高等学校 入学考査 問題

(一次) 国語 (五十分・百点)

注意事項

- 1 問題は1ページから18ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内に記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 4 受験番号を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受験番号

--	--	--	--	--

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数に
は、句読点その他の符号も一字として含みます)

※ PM2.5にあてはまる極小の物質は、人間が吸い込むと、肺の奥にまで到達し、深刻な呼吸器系の疾患を引き起こします。これらの物質は、自動車や工場が使用する化石燃料の燃焼によって排出されるものも多いですが、タバコの煙や火山噴火による粉塵ふんじんなども当てはまります。

そして中国北部の場合には、もうひとつPM2.5を深刻化させているものがあります。それが砂漠土です。実は風で飛ばされる砂漠土は、PM2.5にあてはまる微粒子物質の代表例なのです。中国北部では冬季に吹き付ける北西からの季節風によって、中国とモンゴルの国境付近にあるゴビ砂漠からの砂や土が東方の中国北部に飛散しやすくなります。ちなみにこの砂や土が日本まで飛ばされてくるのが黄砂です。

〈中略〉

① ただ最近では中国のPM2.5の深刻な状況を耳にする機会は減ってきました。それは中国政府が2010年代後半から冬季に悪化する大気汚染への対策を講じてきたことがあります。北京、天津をはじめとする中国北部の大都市を重点地域に指定し、排ガス基準をクリアできない工場などに対して^a へイサや生産停止を強制し、

「※ 暖気」の熱源を石炭から天然ガスに切り替えるというものです。ただこの天然ガスは、日本にとっても大変重要な資源なのです。

2020年まで世界最大の液化天然ガス輸入国は日本でした。実は日本も中国と同じく大気汚染が深刻だった高度経済成長期の1960年代以降、液化天然ガスの輸入を拡大してきました。天然ガスは他の化石燃料の石炭や石油と比べて、燃焼時に[※] 硫黄酸化物や窒素酸化物の排出が極めて少ないため大気汚染につながりにくいからです。また、温室効果ガスである二酸化炭素の排出量も少ないことから、脱炭素の燃料として現在世界的に需要が急拡大しています。

ただ天然ガスは「ガス≡気体」なので、輸送・貯蔵・供給には技術力が必要です。そのため一朝一夕で天然ガスの輸入・供給を増やすことは難しいとされています。

I、天然ガス生産国から遠く離れ、他国と陸地で接していない^② 日本は、天然ガスをLNG

(液化天然ガス) 船を用いて輸入しています。天然ガスは液化すると体積を約600分の1まで縮小できるため、天然ガスを効率よく運ぶためには液化するのがベストだからです。しかし、天然ガスを液体にするにはマイナス162℃超の冷凍状態を保つ必要があるため、輸送費が高つくついてしまう問題があります。そのためできる限り近距離から輸入することが重要となります。

③ そうなると、中国も日本と同じ地理的位置にあるため、天然ガ

ス輸入国として競合することになります。確かに中国は天然ガスの大産出国であるロシアと陸で国境を接しているので、一見するとロシアから※パイプラインを使ってアたくさん輸入できると思われるかもしれませんが。Ⅱ、ロシアの天然ガス産出地はヨーロッパに偏在しており、中国へのパイプライン網は建設段階で完成していないものが多いことや、政治的な駆け引きで天然ガス価格を上げ下げするロシアにb翻弄されたくないため、中国をもってしても容易にロシアからの天然ガスの輸入を増やせないという事情があります。

※1・5を見るとわかるとおり、2021年にはイついに日本を抜いて中国が世界一の液化天然ガス輸入国になりました。日本は天然ガスを中国など他の国に買い負けないためにも、調達を民間企業任せにするのではなく国を挙げた安定供給策が求められます。そしてこの天然ガスも有限であり、クリーンエネルギーとはいえ二酸化炭素はウ確実に排出されます。脱炭素を目指す持続可能な社会の実現には、化石燃料ではなく再生可能エネルギーへの転換も同時に求められます。

その中国に代わって、現在工最も深刻なPM2.5の被害が見られるのがインドです。世界大気汚染都市ランキングでも、ワースト30都市のうちオなんとインドの都市だけで21都市を占めています。

インドも中国から遅れて近年急速な経済成長をc遂げていること

が最大の要因ですが、インドには特有の事情があります。④そのひとつが「緑の革命」以後、活発化した野焼きです。「緑の革命」とは、1960年代半ばから人口爆発による食料不足を解消するため、米や小麦など穀物の※高収量種の開発・dフキユウを目指した世界的な取り組みです。

インドはこの「緑の革命」のおかげで米や小麦の増産に成功し、米においては現在世界一の輸出を誇るまでになりました。ただ「緑の革命」の際に導入された米の高収量種の栽培には、水を多く必要としました。インドの北部は南部に比べて降水量が少なく、米の栽培には灌漑(かんがい)（耕地へ人工的に水を引くシステム）の整備が欠かせませんでした。ところが地下水を用いて灌漑整備を進めた結果、地下水の過剰揚水によって地下水資源の減少や地盤沈下が深刻化してしまつたのです。そこでインド政府は、北部地域（パンジャブ州・ハリヤナ州）では水を大量に取水する田植えの季節を6、7月に限定し、その代わりに冬場は同じ土地で小麦の栽培を行う二毛作を推奨してきました。11月初旬の小麦の種まきの前には、米の収穫を終え耕地に残った稲穂を取り除かなければなりません。その際手っ取り早い稲穂の除去方法が野焼きなのです。この野焼きは9月下旬から10月頃にかけて行われるため、大量の大気汚染物質が排出されます。

そしてもうひとつが、インド国民の約8割が信仰するヒンドゥー

教の祭日が、同じ10月から11月にかけてあることです。ヒンドゥー教徒は、ヒンドゥー教の祭日「デイワリ」の前後に花火や爆竹で祝う習慣があります。この花火や爆竹の煙に含まれる微粒子状の物質も実はPM2.5です。さらにこの時期は、冬に強く吹く北東季節風がまだ弱いため、大気汚染物質が拡散しにくく、人口が集中する都市周辺の上空に滞留してしまうのです。

インド政府は、近年野焼きへの罰金や「デイワリ」の時期の花火や爆竹の販売禁止を行うまでになっています。経済成長による大気汚染の深刻化が、人間の健康だけでなく、人々の拠り所である生活や宗教的慣習をも非持続的なものにしてしまっているのです。^⑤取り締まるべきは何なのか、社会全体での対策が急がれます。

【宇野 仙『SDGsは地理で学べ』より】

※ PM2.5:2.5 μ m (マイクロメートル) 以下の微小粒子物質。

※ 暖気:中国で使用されている集中暖房システム。

※ 硫黄酸化物:化石燃料の燃焼で排出され、ぜんそく、酸性雨などの原因となる物質。

※ 窒素酸化物:物が高温で燃えたときに発生し、人体に悪影響を与える物質。

※ パイプライン:燃料などを輸送するために、パイプを連続して接合したシステム。

※ 1・5:出典の書籍に掲載されていた表。本文では省略。

※ 高収量種:高い収穫量を見込めるように改良された品種。

問一 ——線部 a ~ d について、漢字はその読み方を平仮名で書き、カタカナは漢字に直しなさい。(漢字は楷書で正しく書くこと)

問二 空欄 ・ に当てはまることばを、次のア~カからそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。(同じ記号は二度使えません)

ア だから イ 要するに ウ かし

エ あるいは オ もちろん カ 例えば

問三 ——線部ア~オの中で、品詞が異なるものを一つ選び、その記号を書きなさい。また、その異なるものの品詞名を漢字で書きなさい。

問四 — 線部①について、学級で話し合いをしました。次の話し合いの様子の、 a b c に当てはまることばを、 a は十八字、 b は十字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。 c は二十二字で本文中から探し、初めと終わりの五字を抜き出して書きなさい。

金子 かねこ まず、中国でのPM2.5の被害について押さえよう。

山口 やまぐち PM2.5にあてはまる物質の排出原因は、 a によるものが一般的のようだ。これに加えて、中国北部では

特有の事情があったんだね。

石井 いしい 中国北部では、冬季に b が風に飛ばされ周囲に散らばりやすくなるのが原因で被害が大きくなった。

金子 そういったこともあって、政府がさまざまな対策をとってきたことが具体的に書かれているよ。

山口 その一つの天然ガスの使用は、中国だけでなく世界的に拡大しているものなんだね。

金子 天然ガスはどういったところがすぐれているのかな。

石井 まず、大気汚染の原因になる物質が他のエネルギー資源と比べると少ない点。それから、 c という点が、現在の社会にとって重要だと筆者は指摘しているよ。

金子 PM2.5について調べると、エネルギー源の性質や環境対策に関する社会の動きも見えてくるね。

問五 — 線部②について、日本の天然ガスの輸入に関する説明として適当でないものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 一度に多く運べる輸送方法を採用している。

イ 船の中では天然ガスは冷凍状態である。

ウ 輸送費用が多くかかっている。

エ なるべく近い国から輸入する必要がある。

オ 安全面から遠方からの輸入が難しい。

問六 ———線部③について、このような日本の状況に対する筆者の考えの説明として適切なものを、次のア～カから二つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 天然ガスの使用によって環境への負荷が著しく高まったため、社会を挙げた新しいエネルギーへの転換が必要である。
- イ 需要の高さから天然ガスが早期に枯渇する恐れがあるため、国家どうしが協力してエネルギー使用を見直すべきだ。
- ウ 日本国内で天然ガスを供給し続けるには、政府が主導して、他国との競争に勝つための対策を講じる必要がある。
- エ 世界一の液化天然ガス輸入国の中国に買い負けないよう、日本と陸地で接する他国とのパイプラインの増設が必要だ。
- オ 政治的な事情で日本への天然ガスの輸入が減らないように、国内で生産し、供給できるような方策が求められる。
- カ 将来性や環境面から、天然ガスに過剰に依存することは危険なので、再生可能エネルギーの使用を模索するべきだ。

問七 ———線部④について、「緑の革命」によって野焼きが活発化したのはなぜですか。それを説明した次の文の a b に当てはまることばを、 a b は八字、 b は十三字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

灌漑整備に伴う a が原因で多くの問題が発生したこと
で二毛作が推奨され、 b として野焼きが選択されたから。

問八 ——線部⑤とありますが、ここから読みとれる筆者の考えの説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 大気汚染による環境や人体への被害を食い止めることを最優先に考え、汚染物質を排出する現代社会の生活習慣とともに、古くから続く宗教や習慣も見直すことが必要である。
- イ 人々の健康と生活の基盤の両方を守ることが重要なので、大気汚染物質を抑制しながら伝統的な生活や習慣に回帰するための新しい社会のあり方を考えなくてはいけない。
- ウ 大気汚染が原因で、人々の生活の支えとなってきた存在までも損なわれてしまうため、経済の発展を優先し続ける社会のあり方からまず見直すことが大切である。
- エ 大気汚染による環境や人体への影響だけではなく、大気汚染物質が人間のどのような行動から発生しているのかという根本的な部分をもっと正しく知る必要がある。
- オ 大気汚染の解決のためとはいえ、人々の生活に必要な要素を規制するのは本末転倒であり、汚染物質だけを除去できるような対策を社会で協力して見つけ出すことが重要だ。

問九 この文章で書かれている内容に当てはまることとして最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 日本の大気汚染は、主に経済成長に起因する中国とインドとは異なり、煙や粉塵の被害が大半を占めた。
- イ 日本で大気汚染が深刻化してから約60年後に、中国でも大気汚染による被害が拡大するようになった。
- ウ 食料不足を解消するためのインドの取り組みは、大気汚染を引き起こし、食料の安定供給にもつながらなかった。
- エ インドでは、季節風の弱い時期にPM_{2.5}が都市近辺に滞留することが、大気汚染を深刻化させる要因の一つである。
- オ 中国とロシアの間の輸入問題を解消することが、天然ガスの世界的な安定供給に向けて不可欠である。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号も一字として含みます)

桜木学院高校のラグビー部は、新任講師の酒田によって創部されたばかり。一年生の国東は助っ人の部員だが、※スクラムハーフとしてチームを引っ張る存在である。ラグビー部が※花園予選の神奈川県大会に参加する中、国東は家庭の事情で福岡県の高校に転校することが決まった。国東は親に頼んで、桜木学院高校が勝ち進める日程まで引っ越しを引き延ばしてもらっていたが、部員の一人であるミナト以外には、転校することやラグビー部を辞めることを伝えられずにいた。相模工科大学との対戦が近づき、国東はチームを離れることをみんなに話さなければならぬと感じていた。

登校した国東を正面玄関で待っていたのはキャプテンだった。話がある。ちよつと付き合え。陰鬱な空の重苦しい雲が今にも自分の上に落ちてきそうな予感に脅えながらついていった先は屋上だった。

最近、人目が多くて安易に立ち話もできない、困ったものだ。その声を曇らせたキャプテンは、それきり口を噤んだ。キャプテンの沈黙は国東を圧迫した。心臓に悪いこの沈黙をキャプテンが破るの

を、胸の動悸を持って余しながら国東は待った。

低い空に目線を固定したまま、「福岡に行くそうだな」とキャプテンが言った。

な、なんで……。

虚を突かれ、国東の視線が宙を泳ぐ。

「ミナトを相手にパスの練習をしていたら。迂闊ながら、おまへの練習にミナトがつきあっているのだと思っていた。だが、^①あれはミナトの特訓だ」

キャプテンの口調は平時とは明らかに違っていた。キャプテンは「おまえ」と国東を呼んだのだ。誰のことも名前で呼ぶキャプテンが……。キャプテンは怒っている。風邪のひき始めのように国東の背中に悪寒が走った。

「ミナトを問い質したらあつさり白状した」

ミナトを責めることはできない。この口調で尋問されたら誰だって口を割る。^②今の国東にできることは、黙っていてすいません、と謝ることだけだった。

「今月末に引っ越すというのは本当か」

確認するようにキャプテンが言った。

屋上の床の緑色のシートに国東の視線が落ちる。

「準々決勝は十一月の最初の日曜だということは知っているか」

矢継ぎ早な質問に、「……はい」と細い声を絞り出すのがやっと

だった。

「我々の目標が、準々決勝で黒高くろこうを破ってベスト4に残ることだということも知っているな」

知っています。

「つまり、おまえは、櫻木の花園予選は次の日曜日で終わるとふんでるわけだ。ウチは相模工科に負けると決めてかかっているわけだ」

国東は目を伏せた。ラグビーは番狂わせのない競技だ。次の相模工科戦、ふつーに櫻木に勝ち目はない。

「確かに相模工科は強い。しかし、オレたちも強くなっている」

キャプテンの言う通り、櫻木は強くなった。※すがたいち菅平で経験値を高め、九月、十月と出来る限りのことはすべてやった。だから、善戦はするだろう。でも、勝つのは不可能だ。ウチは創部して半年もたっていないチームなのだ。

「ベスト4の常連とはいえ相手の力を過大視する必要はない。実際に、今年の関東予選では黒高も相模工科に勝っている」

「僅差でした。それに、黒高のサイズはウチより遥はるかに大きい」

「サイズ？」キャプテンが肩をそびやかした。「おまえは、なにを怖がっているんだ」

「怖がってるわけじゃありません。相手は黒高と互角のレベルだと言ってるだけです。※フィットネス、ラン、※ハンドリングスキ

ル、どれをとってもウチより相模工科が上です。※バックスには二年生で県代表の※ウイングもいます。※センターの三年生も侮あなどれません」

③ そんなの、いちいち言わなくてもわかりきっていることじゃないか。国東は声をイラ立たせた。

「部員の層からして違います。あつちは、選手が怪我けがしても同じポジションに何人もの控えがいるんです。ウチは試合中に誰かが怪我をしたらポジションを入れ替えて回すしかないですよ」

「ウチも部員は増えている。新人は二人とも即戦力だ」

即戦力って……二人ともラグビーに関しては素人しろうとじゃないか。

「キャプテンの言葉とも思えません。それじゃあまるで酒田……：センセーじゃないですか」

「それは、bコウエイだな」ゆっくりとキャプテンが口角を持ち上げた。「オレは酒田先生を信じている。全幅の信頼を寄せている。コーチに必要なものはテクニクを伝える能力、選手をc鼓舞する力、そしてリーダーシップだと言われているようだが、そんな能力よりも、信じるに足る人間であることのほうが重要だとオレは思っている」

勝つと信じなければ絶対勝つことはできない。それが酒田の口癖だ。勝つと信じれば相模工科に勝てるcと酒田は公言している。ラグビー部員たちはその言葉を信じている。信じられるのは彼らがラグ

ビーを始めたばかりの初心者だからだ。

「本気で信じているんですか、酒田先生が言ってること」

「もちろんだ。なぜ、おまえは信じない」

それは、国東が経験者だからだ。

ラグビーはそんなに甘くない。中三で神奈川県ラグビースクール選抜の一員として全国ジュニア大会に出場して他県の代表と戦った国東はそれを知っている。

「はつきり言おう。おまえは自分の後釜としてミナトを選びミナトもおまえの気持ちに応えようと努力しているようだが、彼はまだスクラムハーフとして黒高戦に出せるレベルではない。※ゲームメイクの要はおまえなんだ」

「でも……」抗弁しようとする国東を、「これは、ミナトがオレに言ったことだが」と低い声が遮った。

「ミナトはおまえと毎日※スクリューパスの練習をしたことで、^だ楢のボールはまっすぐ返ってはこないから一人で『壁打ち』みたいな練習はムリなんだと実感したそうさ。ラグビーって本当に一人じゃできないスポーツなんですわね、と彼は言っていた。」

④ 国東は心臓を素手で掴まれたような気がした。

「オレたちにはおまえが必要だ」

どんより湿った雲に覆われた空をこじ開けるような強い言葉。

やばいっすよ。そーゆうの、反則っすよ。

「相模工科に勝利し黒高とベスト4を賭けて戦う。オレたちの花園予選はまだ続くんだ」

そう言うと、キャプテンは口を閉じた。

眼鏡越しに国東を見つめている瞳からキャプテンの思考は読み取れない。本当は数十秒だったのかもしれない。けれど、国東にはほとんど永遠と感じられるくらいの長い長い沈黙。

d ニブく控えめな音が沈黙の静けさを破った。キャプテンの制服の上着のポケットが振動していた。

「わかった」

着信に短く答えたキャプテンは携帯をポケットに戻すと、屋上の入り口のドアに目をやった。なにかを待っている様子だ。

ほどなくしてドアが開く。現れたのは※チュウだった。

※ 北湘戦でこしらえた※青タンに縁どられた目を細め、チュウが国東に手を挙げた。

「今朝、キャプテンから聞いて驚いたよ。そーゆうことならもっと早く言ってくればよかったのにー」

ほんわかとチュウが笑うと、細い目がさらに細くなる。

「で、いま、祖父ちゃんに電話したら、一週間でも一か月でも好きなだけ居ていいってー。朝の出荷を手伝ってもらえれば祖父ちゃんも助かるし、祖母ちゃんも国東のこと気に入ってるし、実家広くて部屋はいっぱいあるし、もし気を遣うようだったらオレもいっしょ

に泊まり込んでもいいしー」

「そういうわけだ。とりあえず、もうしばらくこの生徒でいてほしいのだが、どうだろう」

「どうだろう、と国東の意向を窺う口調とは裏腹に、それはほとんど事後承諾だった。

「御家族の引越しの日程はそのままに、おまえだけ少し先に延ばす。それで問題はないな」

⑤ 国東はちよつと気が遠くなりかけた。なんなんだこのヒトたちは。オレの人生、なに勝手に決めてんだ。

国東の無言を承諾と解釈したのだろう、チュウがひと仕事終えたあとのサラリーマンみたいに伸びをした、低い空に腕を突っ込む勢いで。

が、キャプテンの仕事はまだ終わっていないようだった。

「ほかにこのことを知っている者は」

「ミナトだけです。酒田先生やキャプテンやほかのメンバーには今日中には話すつもりでした」

「酒田先生はともかく、⑥ ほかのメンバーに言うのは……そうだな、できれば黒高戦直前にしてほしい」

再び沈黙が訪れた。

ただ、今回の沈黙は、国東にキャプテンの思考を推し量る余裕を与えた。

「みんなを本気にさせる起爆剤に使うつもりですか」

もしキャプテンの言う通り、相模工科に勝ったとして、その代償は大きい。櫻木はかなりの身体的ダメージを負うだろう。櫻木は万全とは言えないコンディションで黒高と戦わなくてはならない。国東は知っていた、疲労やダメージが往々にしてあきらめを生むことを。

先の先まで読んでいるキャプテンは、部員たちの心を浸食してくださる『あきらめ』というネガティブな感情を、オレを使って吹き飛ばそうとしているんだ。気合とかを超えた、もつとぎりぎりの感情で『あきらめ』を凌駕させようとしているんだ。

「勝つためにはなんでもやる気なんですわね」

ラグビーは番狂わせのない競技だと言われている。それでも、番狂わせは起きる。いや、起こさなければならぬ。※ 司馬の頭は氷のように冷えていたが、心の中には火が燃え盛っていた。

「前から感じていたことだけど……みんな、キャプテンのことをいいヒトみたいに思ってるけど、ホントは、けっこう⑦ 腹黒いですわね」

「わかるか」

「わかりますよ」

キャプテンが笑った、楽しそうに。

【花形 はながた みつる『Go Forward!』より】

- ※ スタラムハーフ、バックス、ウイング、センター
 …ラグビーのポジション。
- ※ 花園予選…「花園」は全国大会が行われる花園ラグビー場。花園予選は全国大会に進むための県大会を指す。
- ※ 菅平…ラグビー部の合宿がよく行われる場所として有名。
- ※ フィットネス…身体能力や機能。
- ※ ハンドリングスキル…ラグビーでボールを扱う技術。
- ※ ゲームメイク…試合運び。
- ※ スクリューパス…ボールを回転させて行うパス。
- ※ チュウ…ラグビー部の部員。
- ※ 北湘戦…北湘高校との試合。
- ※ 青タン…青くなっているあざ。
- ※ 司馬…キャプテンの名前。

問一 ———線部 a、d について、漢字はその読み方を平仮名で書き、カタカナは漢字に直しなさい。(漢字は楷書で正しく書くこと)

問二 ———線部の熟語と同じ組み立ての熟語を、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 潮流 イ 幼稚 ウ 乗車
- エ 賞罰 オ 不利

問三 ———線部①とありますが、これはどういうことですか。それを説明した次の文の に当てはまることばを、本文中から五字で抜き出して書きなさい。

国東は、自分がいなくなったあとにミナトが としてチームの要になるように、ミナトを鍛えていたということ。

問四 ――線部②のときの国東の気持ちの説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 温厚なキャプテンが不機嫌になるほど自分がよくないことをしたと気付いて、後悔と反省を感じている。

イ 誰に対しても親身なキャプテンが冷酷な態度をとったことに深く傷つき、心細い思いになっている。

ウ ふだんとは異なるキャプテンの険しい態度に恐怖を覚え、抵抗することができないと感じている。

エ キャプテンの厳しい言葉に信頼を失ったことを自覚し、許してもらいたいとあせりを感じている。

オ 横暴な行動をとったキャプテンに不満を覚えながらも、事を荒立てないようにぐっと耐えている。

問五 ――線部③について、生徒がグループで話し合いをしました。次の話し合いの様子、

次の話し合いの様子、

を、

それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

石井 この前後で、キャプテンに対して不満を抱く国東の心情が表れているね。

金子 キャプテンは櫻木学院高校が相模工科に勝つと思っていたけれど、国東は、すべての面で相模工科が上回っているので勝つのは不可能だと考えているよ。

山口 なぜ二人の考え方はこんなにも違っているのかな。

八木 まず、キャプテンは、

強く共感して、絶対に勝てるという気持ちでいるんだよ。反対に、国東は、先生の考えを素直に受け入れていない。

金子 そうだね。国東は、キャプテンや他の部員は初心者だから先生の言葉を信じられると考えている。ラグビーの経験がある国東は、ラグビーは

なと思っていますんだよ。力が圧倒的に劣る櫻木学院高校が、相模工科に

石井 二人の考えが対立している背景には、経験の差がある。この部分では、それが丁寧に描写されていると思うよ。

問六 ——線部④の国東の気持ちの説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア ラグビーは力を合わせることが大切で、自分の存在が必要だと訴える言葉を聞き、ミナト一人で大丈夫だと考えていた自分の傲慢さを思い知り、打ちのめされた思いでいる。

イ 自分とのかかわりにより、ラグビーは仲間がいてこそ成り立つのだと部員が感じたことにはつとる思いを感じ、途中でチームを離れようとしたことを後ろめたく感じている。

ウ 人と人を結びつけるラグビーの本質について自分が部員にしっかりと伝えられたことに幸せを感じ、チームを離れても大切なものを残すことができたと感じている。

エ ラグビーは仲間を必要とするもので、途中でチームを離れることは裏切りだと暗に指摘されて苦しさを感しながらも、指摘の方法はひきょうだと思ひ、悔しくなっている。

オ 自分との練習で仲間が重要であるラグビーの魅力が部員が気付いたと知り、メンバーと特別な関係を築けたことに満足しながらも、寂しさに耐えられない思いになっている。

問七 ——線部⑤とありますが、国東がどのように感じた理由の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 自分の重大な予定をキャプテン主導で決められたことに、自分の無力さを痛感し、今後が不安になったから。

イ 謙虚な態度に見せかけて反論を許さないキャプテンのしたたかさが怖く、とうていかなわないと感じたから。

ウ キャプテンたちが自分のことを心から思い、様々な対応をしてくれたため、提案を断れない雰囲気になったから。

エ 思い通りに物事を進めるキャプテンの、自分の意志をほぼ無視する強引さや手際てぎわのよさに衝撃を受けたから。

オ 自分のことを見下して、思い通りに物事を進めるキャプテンの傲慢さに、かつとなつてしまったから。

問八 — 線部⑥とあるが、キャプテンがこのような提案をしたのはなぜだと考えられますか。それを説明した次の文の **a** に当てはまることばを、**b** は十五字で本文中から抜き出して書き、**b** は三十三字で本文中から探し、初めと終わりの五字を抜き出して書きなさい。

黒高との試合の前の **a** の中で、国東との別れを部員に伝えることで **b** をかき消し、もう一度やる気にさせるため。

問九 — 線部⑦とありますが、これはどういうことですか。それを説明した次の文の **□** に当てはまることばを、本文中から十三字で抜き出して書きなさい。

キャプテンが **□** でいるということ。

問十 この文章について説明したものとして最も適切なものを、次の **ア** から二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 会話文や登場人物の心情をくだけた言葉遣いで部分的に表現して印象付け、登場人物に現実感を持たせ、共感しやすいように描いている。

イ 国東の視点を中心に物語が展開するが、これまでの経緯を回想する場面では別の登場人物の視点から描かれ、人物同士の関係が伝わりやすくなっている。

ウ 表情の変化や話し方に直接的なたとえを用いることで、心情を具体的に描写し、登場人物が一貫して重苦しい雰囲気に含まれていることを伝えている。

エ キャプテンの動作や声色についての描写はあるものの、心情を明確に表すことばを一切用いないことで、キャプテンの近寄りがたさを演出している。

オ 場面の風景を、登場人物の心情や様子に重ね合わせるようにして表現することで、人物の心の動きをより繊細に伝えようとする効果が見られる。

カ 地の文を中心として文章を展開し、登場人物の動作や表情を丁寧に描写することで、それぞれの人物の立場や心の動きを想像しやすくしている。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号も一字として含みます)

今は昔、※甲斐国かひのくにに※館たちの侍さむらいなりける者の、夕暮ゆふぐれに館たちを出いでて家

ざまに行きける道に、狐きつねの①あひたりけるを追ひかけて※引目ひきまへして

射ければ、狐の腰に射当ててけり。狐※射まろばかされて、鳴きわ

びて、腰をひきつつ草に入りけり。この男※引目を取りて行く程

に、この狐腰をひきて先に立ちて行くに、②また射んとすれば失せ

にけり。

家いま四五※町にと見えて行く程に、この狐二町ばかり先だち

て、火をくはへて走りければ、火をくはへて走るはいかなる事ぞと

て、③馬をも走らせけれども、家のもとに走り寄りて、人になりて

火を家につけてけり。④人のつくるにこそありけれ」とて、※矢

をはげて走らせけれども、つけ果ててければ、狐になりて草の中に走り入りて失せにけり。さて家焼けにけり。

かかる物もたちまちに仇あだを報むくふなり。これを聞きて、⑤かやうの

物をば構へて※調てうずまじきなり。

【『宇治拾遺物語』より】

※ 甲斐国：現在の山梨県にあたる地域。

※ 館の侍：国守の役庁で働く侍。

※ 引目：矢の一種。驀目むきめ矢。矢じりは木製で、中が空洞で表面には数個の穴がある。目当てのものに致命的な傷を負わせない作りになっている。

※ 射まろばかされて：体に矢が当たって転がされて。

※ 引目を取りて：引目の矢を拾って。

※ 町：距離の単位。一町は、約一一〇メートル。

※ 矢をはげて走らせけれども

…矢をつがえて馬を走らせたけれども。

※ 調ず：こらしめる。

問一 ——線部①・⑤を現代仮名遣いに改めて、すべて平仮名で書きなさい。

問二 ——線部②の現代語訳として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 再び射ようとする狐は立ち去ろうとしない
- イ さらに射ることはないので狐がいなくなることはない
- ウ もう一度射ようとしたら狐は消えてしまった
- エ 再び射るはずなので狐は逃げてしまうだろう
- オ 次も射ないとしたら狐はいなくなってしまうだろう

問三 ——線部③はどのような様子を表していますか。最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 侍が、火をくわえて走る狐をあやしんで、馬を急がせて狐を追いかけようとしている様子。
- イ 火をくわえた狐が、侍の家に火をつけるために、馬に乗って素早く移動している様子。
- ウ 侍が、火をくわえた狐を怖がって、馬を急がせて狐から逃げようとしている様子。
- エ 火をくわえた狐の姿におびえた馬が、あわてて狐から逃げようとしている様子。
- オ 狐が、侍が家に帰るのを邪魔するために、火をくわえた馬を侍の方に向かわせている様子。

問八 「宇治拾遺物語」は鎌倉時代に成立した作品ですが、同じ時代に成立した作品を、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 伊勢物語
イ 南総里見八犬伝
ウ 太平記
エ 方丈記
オ 大鏡